揖斐郡教育研修センター通信　⑨　　R3.9.6

揖斐郡社会科課題追究作品展審査会より

９月１日に「令和３年度揖斐郡社会科作品展」が行われました。審査会には各校で取り組まれた作品の中から、学校での審査を経て素晴らしい作品が出品されました。今年はコロナウィルス感染症のために集合型の作品展ができませんが、９月１７日～３０日に郡センターのホームページにおいて「令和３年度オンライン社会科課題追究作品展」を実施し、郡で選ばれた優秀作品をウエブ上で展示しますのでぜひご覧ください。

またオンライン作品展では展示できる作品が限られるため、当日審査していただいた先生方からのご講評（作品の素晴らしさや今後への課題）を「センター通信第９号」にして配付させていただきますので、多くの先生方にご覧いただくとともに、次年度の指導に生かしていただければ幸いです。

なお、この通信に掲載した講評につきましては、児童生徒、保護者にも見ていただけるようにオンライン社会科作品展のページにも掲載致します。

最後になりましたが、作品に取り組んだ児童生徒の皆さん、ご指導していただいた先生方、児童を支援していただいた保護者の皆様、忙しい中審査をしていただいた先生方、作品展審査会の会場づくり・運営にご協力をいただきました会場校の先生方、本当にありがとうございました。

令和3年度揖斐郡社会科課題追究作品展　審査員の先生方からのご講評

【作品のすばらしさ＆作品から学びたいこと】

①＜研究テーマの取り上げ方や動機の素晴らしさ＞

- 低学年から調べたいテーマがはっきりとしていて、その解決に向けて調査が行われて素晴らしいです。
- 今日的な課題であるSDGｓを取り上げた研究が多く、自分には何ができるのかを考えた実践もあるのが大変素晴らしいと感じました。
- 中学年は防災についてやSDGｓについて調べた作品が多くありました。他にも地域にある橋や古墳、鉄道など自分が好きなことでさらに追究したいことを見つけて取り組むことができていました。
- ６年生は社会的事象を追究するために、自分が疑問に思ったことを解決したいという思いで、作品作りに意欲的に取り組めていました。日頃から自分の生活の中で気になることを主体的に取り組めている姿も良かったと思います。
- 中学生として社会に目を向けた作品が多いと感じました。
- 地域の鉄道や橋など身近なものに興味を持って調べた作品や、オリンピックやSDGｓなど最近良く話題になっているものを取り上げた作品が多かったです。
- どの作品も「調べてみたい」という気持ちがよく出ていて、素晴らしい作品でした。今年はコロナウィルスの影響もあり、作業的・体験的な活動を行う難しさがあったと思います。しかし、多くの作品で「調べてみたい」ことを自分の目で見て、その場の空気を感じることができていました。これは社会科ではとても大切なことだと思います。

②＜取り組み方や追究方法の素晴らしさ＞

- 実際におにぎりをつくったり、橋の場所を確かめたりし、実感をもって仕上げたものもあり、とてもよい取組だと感心しました。
- 体験や実際に話を聞いて調査することが大切にされていて、より深い研究になっています。
- 身近な疑問から「なぜ？」を見つけ、自分の足で調べ、情報を得た作品が見られました。自分の目で見

た感動が伝わり、作品の素晴らしさにつながっていたと思います。

- 特にSDGｓについてまとめている作品は課題を追究する中で「自分たちにできることは何か」ということを考え、実践しているところが素晴らしいと思いました。
- 作品全体を通してコロナ禍ではあるが、地域に足を運び、人とのふれあいを通して学んでいる作品や、今日的課題に対して自分ができることを考え、実践しようとしている作品が多かったように思います。小学校高学年でSDGｓについて追究した作品がよく見られたことは特に印象的でした。
- 児童生徒の自らの力はもちろん、ご家族の大切なご協力も感じられる力作ぞろいでした。
- どの児童も作品対する熱意が伝わるものでした。社会の中で問題視されていること（SDGｓ、南海トラフ地震、海洋プラスチックゴミなど）に関心を持ち、自ら調べ、まとめ、考えを構築させているところがすばらしかったです。
- 古墳や縄文時代の人々の暮らし・道具について調べたり、インタビューしたり、実際に作ってみたりした作品には、自分の好きが伝わってきて、とてもうれしく思いました。
- すべての作品について、様々な方法で調べ、まとめ、これから自分はどうありたいかという考えがしっかりとまとめられてあり、将来を背負う子どもたちがとても楽しく思え、それぞれの作品に触れるのがとても楽しく感じられました。

③＜まとめかたのすばらしさ＞

- 現代の話題、SDGｓ、防災など難しいことも自分なりの考えでとらえ、自分が理解できるようにまとめているところがよいです。
- 時間をかけて仕上げたものが多く、感心しました。文章に書いて仕上げるだけでも時間・手間のかかるものが多かったです。
- B紙にまとめられている作品が多く、とても見やすくわかりやすくなっています。
- まとめ方も地図を使ってわかりやすくしたものや、年表にまとめたものなど、工夫が見られました。

④＜研究の継続性のすばらしさ＞

- 出品された作品については、日常生活の中での疑問をもとに調査・研究が進められている点は素晴らしいです。経年の継続研究もあり、追究の視点に広がりや深まりがある点も評価できます。
- 中学校の作品では小学校からの継続作品や、調べてわかったことを課題化し、さらに追究している研究など意欲的な作品があり、感心しました。
- 中学校では小学校で追究したことを踏まえた作品が何点も見られました。課題意識を持ち続け、中学校でより深く課題追究する姿は本当に素晴らしいです。
- どの作品も興味をもって調べていることがうかがえました。実際に足を運んで調べたり、比較したりと様々な工夫が見られたのがとても良かったと思います。また過去の作品からの積み重ねられた作品もあり、楽しく見ることができました。

【さらにより良いものにしていくための今後への課題】

- 今日的課題のアプローチ、分野を明確にした教科学習のつながり、学び自体の広がりや深まり、根拠の明確化、デジタル活用が今後の課題であると感じました。
- タブレット配付やオンライン活用という時代の流れをうまくとらえれば、これまでできなかった遠地や海外などオンラインでの取材や調査も可能だと思います。そうした作品が今後出てくることを期待しています。
- まとめ方では、写真や表など、様々な方法を使ってまとめている姿がありました。まとめる方法は一つではありません。どんな方法がよいかを考え、まとめることを今後さらに充実させてほしいと思います。
- 中学校は全体で出展数が６点というのがさびしい気がします。教科の特性として現地取材等ができない状態なので仕方がないと思いますが、それでももう少し、出品数を増やすための工夫・努力が各校で必要だと思います。
- 調べたことを通して、自分事として考え、研究がより深まっていく作品が増えていくとよいとさらによいと思います。
- 今後は調べた内容を整理し、ていねいにわかりやすく自分の言葉を使ってまとめていくこと、今年取り組んだテーマについて、これに終わらず、今後も研究について粘り強く調査を続けていってほしいと思います。
- 地域にアンテナを高く張り、自分の住んでいる地域を深めていることも素晴らしいと思いました。今後追究にとどまらず、提案・発信できるように課題意識を持ち続けていってください。